

# 川上宏奨学金受給研究成果報告書

## 研究題目

災害小説を用いた心理的介入が地震対策行動に及ぼす影響

——心理実験による検討——

## 1. 研究目的

本研究は、災害時の状況を具体的にイメージさせる手段として災害小説を活用した心理的介入法を提案し、その地震対策行動（「救護用の笛の準備」とした）の促進効果を実験的に検討することを目的とした。本研究では、2つの手法に着目した。災害小説の文章の一部を空白にし、読み手にその部分を創作させる「文章完成法」、物語世界の視覚的イメージの構築を助けるため、写真を文章とともに提示する「挿絵法」である。これらの手法によって、地震対策行動意図と地震対策行動は促進されるのかを、統制条件と比較検討し、さらに地震に対する不安傾向の違いなどがその促進効果に影響を及ぼすかを検討した。

## 2. 研究方法

大学生（有効回答者数 54 人）を対象に、Google form を用いて質問紙実験を実施した。実験参加者を 3 つの条件（文章完成法条件・挿絵法条件・統制条件）にランダムに割り付け、「地震に対する不安」や「心理的介入前の対策行動意図」などに回答してもらった。その後、災害小説を条件ごとに異なる読み方で読んでもらい、「災害小説への移入度」、「心理的介入後の対策行動意図」などに回答してもらった。最後に、謝礼である救護用の笛またはマグネットを選択してもらうことで、地震対策行動の測定を行った。

## 3. 研究結果・考察

分析の結果、3条件（文章完成法条件・挿絵法条件・統制条件）はいずれも心理的介入後

に心理的介入前より対策行動意図が有意に高まることが示された。一方で、3条件間で対策行動意図の促進効果に違いはみられなかった。また、地震対策行動の促進効果を3条件で比較すると、挿絵法では地震対策行動が生起しにくい可能性が示された。しかし、実験参加者が既に笛を所持しているなどの偶然的な要素の影響を完全に排除できておらず、得られた結果の解釈には慎重さが求められる。

補足的検討からは、小説読解時の能動性（空欄を埋めることによって主体的に場面を想像する）の有無が心理的介入後の対策行動意図に大きな影響を与えることが示され、文章完成作業などの能動性を伴う災害小説の活用は、地震対策行動意図の促進効果を高める可能性があることが示唆された。また、読後の恐怖喚起度が災害小説への移入度に影響し、それが心理的介入後の対策行動意図に影響するというメカニズムも明らかになった。読み手の恐怖度が高まるような内容の災害小説を読ませると、災害小説への移入度を高めることができ、対策行動意図もより高まると考えられる。ただし、強すぎる恐怖によって無力感が生じる可能性もあるため、今後は、恐怖の程度と地震対策行動の関係についても検討する必要がある。

これらの知見は、今後の実践的な防災啓発活動における手法の検討に役立つであろう。

#### 4. 奨学金の主な使用用途

- ①地震対策行動の測定を行うための謝礼品代（救護用の笛・マグネット）
- ②災害小説の購入およびコピー代

#### 5. 謝辞

奨学金を給付してくださった故川上宏先生とご家族、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ご支援をいただいたことで、計画していた研究を円滑に実施することができ、良い知見を得ることができました。誠にありがとうございました。